ドイツ連邦食料・農業省　　農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 12
2022・9・12

1 オズデミール大臣：第 75 回ドイツ郡・地方自治体評議会総会で挨拶

ー郡・地方自治体無しでは農村の活性化は不可能ー　（2022・9・7）

連邦食料・農業省大臣オズデミールは、今週水曜日（9 月 7 日）に、ノイハルデンベルグで開催された第 75 会評議会総会に出席した。

この総会に際して、気象保護、エネルギー消費、農村地域のデジタル化、そして農地需要の使用減少のために、必要な変革を促進するために、農村地域の重要性を訴えた。

農村地域はエネルギー転換で鍵となる。

連邦政府は、農村の現地での決定自由度の高い高能率な地方自治体を望んでいる。

オズデミール大臣が挨拶で述べた：”この政府は、あなた方を信頼している。

私は心の底から確信している。我々は強く行動力のある郡・地方自治体のみ、将来の課題を克服できる。そのため、連邦政府は適切な方向に転換をしなければならない”。例えば、エネルギー転換成功のために、農村地域が自らの努力からもまた、恩恵を得ることが重要である。”

大臣は続けた。”私は再生可能エネルギー拡大のための、「イースターパッケージ（訳注）」によって、農村地域において多くの価値創造の可能性の確保を、より強く促進する。このことは明確である。都市はエネルギーの供給について、農村地域を必要としている。しかし、国は結局「手ぶら」であってはならない。

地方自治体は、風力ー空地（フライスペース）ー太陽光発電施設から生ずる収益に適切に参画し、そしてどこの空地に風力ー太陽光発電施設を設置するか、決定する。

オズデミールは、エネルギー転換の視点でもって、発電施設の設置用地と農地の利用との競合を調整する。エネルギー転換のためには、議論の余地なく必要な土地が、主に農村地域に多く存在している。しかし、まさにこの土地は、同じくエネルギー確保のために必要である。”

（訳注・イースターパケージ：連邦政府が、2022 年 7 月に決定した、再生可能エネルギーを 2035 年までに全ての電源を、ほぼ完全にカバーする計画。（主に太陽光ー風力発電でもって行う）。

オズデミール大臣：”重要なことは、今ある畑、農地利用を賢く扱うことである。さらに優先順位を、適切に決定しなければならない。その際、私は地元の郡と地方自治体を頼りにしている。現地での賢明な計画と法的に適合した大枠条件とベルリン（国）からの支援との共同でのみ、成功する。連邦政府は、農村に都市と同価値の生活条件を創り出すために、州とともに農村地域の支援に取組む。そのため、EU-共同課題「農業構造と海岸保全（GAK）」について、１つの手段として活用する。

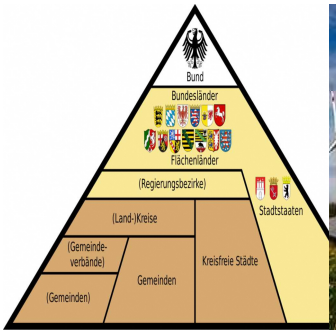
私は希望する。今一度、基本法（訳注・ドイツの憲法）改正のための窓を開けること。農村地域発展のために、真の共同課題へと拡大するために。しかし、我々は基本法上の領域の中で、農村地域の自己の力を強化するための多くの「テコ」をもっている。農村地域奨励に際しても、将来の自然ー環境ー気象保護を、なお強く考慮しなければならない”と、大臣は求めた。そのため、ＥＵー共同課題における奨励政策を毎年現実化し、その中で気象危機と種の絶滅のような課題に適用させる。

オズデミールは、農村地域に都市と同価値の生活関係を創り出すために、絶対必要なものとして、デジタル化を挙げた。”これは農村における魅力的な就業の場と競争力ある企業は、農村では必須の前提条件である。加えて高能力なデジタル接続による、近代的な管理が関わってくる”と、大臣は述べた。「土地を覆うグラスファイバー」と、高速モバイルフンク（高速移動体通信）ーこれは農村地域のための決定的な将来課題である。

ホームオフイスは広帯域が必要であり、そして広範囲な郡・市町村ではまさに、市民から当然のごとく、期待されている。例えば、行政事務をデジタルで処理できるように。連邦食料・農業省は、連邦政府のギガビート（情報量の単位の１つ、10 億ビート）ー戦略の実施に積極的に参画する。

さらにオズデミール大臣は、お互い現地としての農村地域の重要課題について協調した。”共同体とボランテイアの力、そして人々のアイデアーこれは農村地域では古くから際立っていた。今、多くの危機が同時に我々を襲ってくる。このことは、はっきりしている。我々の日常の一部（例えばコロナ）であることから、農村地域の人々は、最前線でパンデミックと闘っている。戦争はウクライナの人々に、計り知れない苦しみをもたらしていることについて、農村地域が避難場所を提供している。”

オズデミール大臣は、自らの演説で今後の見通しをもって閉じた。気象危機は、リアルタイムで襲ってくる。森林火災または洪水が、農村地域に襲来する。
”しかし、我々が共同で適切に対応する場合、次の 10 年は農村地域の時代となる。このためには、郡―地方自治体のような強いパートナーが必要なる。
同時に農村の全体的な潜在力を、発揮することができるように、農村地域を形成するために必要である。国は独自の基本的な「宝」をもっている。それは農村地域の将来構想、将来を描くデザイン意欲、責任自覚そして革新的な精神である。”



ドイツの基本的な行政システム：国ー州ー郡ー市町村

農村地域は太陽光、風力発電など再生可能エネルギーの拠点

ひまわりはバイオデイーゼル燃料の原料

光ファイバー回線ー高速・

農村地域にも光ファイバー

バイエルン州南部地域にも

大容量の情報伝達が可能　回線ー都市と同価値の生活を 光ファイバー

２連邦閣議の決定：パン用小麦の価格高騰で連作による小麦生産を

ー EU-共通農業政策の輪作体系を小麦の連作に変更認可ー（2022・8・31）

パン価格高騰で小麦の連作を認可

連邦閣議は輪作と休耕地について、2023 年に例外的に小麦の作付けを認可した。これは穀物生産の安定を保つための第１歩である。オズデミール大臣は、今日（8 月 31 日）GAP（EU-共通農業政策）の例外規定を閣議に提案した。同時に（2023 年にのみ限定）EU-農業奨励の領域において、より多くの穀物の栽培を可能にする。 そして不安定な穀物市場を安定させ、同時に世界の食料確保のために貢献を果たす。

オズデミール大臣：”ウクライナに対するロシアの犯罪的な戦争は、多くの飢餓の人々に凄まじい結果をもたらしている。なぜならば、ウクライナの収穫物の輸出を停止させ、そして穀物価格を著しく高騰させた。このため、パン用小麦価格は、約 40%の高い価格に達した。我々は穀物市場を安定させるために、農業者にこの例外状況の中で、より多くの小麦生産を可能とさせる。

来年はこの規定でもってＥＵ―農業奨励の中で、初めて例外的に輪作が放棄される。2023 年に限定して、「小麦から小麦の栽培」ができる。”

さらに義務づけられている休耕農地について、さらに農業上の栽培ができる。勿論穀物（トーモロコシ除く）、ひまわりそして豆類（大豆除く）、既に休閑している農地が小麦栽培の対象となる。但し、種の多様性保護の対象になっている農地（2021 年から指定）は、基本的にこの対策から除外される。さらに価値多い景観要素（例えば、生垣、低灌木、畑の中の灌木のような）は、引き続き維持する。オズデミール大臣：”私は種の保護について、この１年間停止させることになるために、この決定は簡単ではなかった

明確なこと。それは問題視されないこと。農業は気象、環境そして種の多様性保護のために、大きく貢献しているからである。そのため、私は今ある種の多様性用の農地は、触れないことも決定した。連邦議会はこの規定を、早急に決定しければならない。”

パンの値上がりは家計費を直撃

輪作体系のひまわり畑を小麦に変更

3　オズデミール大臣：ブレッツエル（パン）を無形世界文化遺産に指定を

ー 700 年間愛されてきたドイツ発祥のパンー　　（2022・8・25）

連邦食料・農業大臣オズデミールは、パン製造業を讃え、そして連邦全土のリストへの採用のための提案を歓迎した。オズデミール大臣は、無形文化遺産として手作業でのブレッツエル製造の伝統を、認知することを協議すると明言した。オズデミール大臣は、最初の第一歩として、地域の伝統的な職人によって、手作業で製造されたブレッツエルの取上げ提案を完成させたこと。

ドイツの伝統的なパン、ブレッツエルを無形文化遺産に推薦

そしてヴュルテンベルグのパン職人組合の適切な公表を歓迎した。その中には、無形文化遺産保護のためのユネスコー合意の基本に沿った、文化形態が登録されている。国内リストへの登録は、世界文化遺産としての認知の前提条件である。連邦大臣は、バーデン ヴュルテンベルグ州のバートウラッハ（ロイトリンゲン郡）の彼の誕生地にあるベーカリーを、今週木曜日に訪問した。その際、ブレッツエルの伝統と生産の多様性でもって、パン職人・職業の価値を認めている。

特にオズデミールは、ブレッツエルの手仕事での製造と、これの長い歴史を強調した。”私は幼稚園の頃から、、ブレッツエルのファンである。このパンの地域に定着している生産でもって、数百年も経た伝統を保持していることは、私にとって大きな関心事と喜びである。”と大臣が述べた。バーデン ヴュルテンベルグのギルドマイスター（商業組合長）は、文化遺産ーイニシアチブを、

大臣のパン工業視察に際して公示した。

マイスターは説明した：”ブリュッツエルは、始めに手作業で製造されたが、特別な「投げ技」でもって輪を結び、特別な焼き方をしたパンである。これは今日でもなお全く特別な、そして多くは機械を使用しないで方法と技術でもって、製造されてきた。700 年以上前に、この感銘深い形でもって、地域の１つのシンボルとして保持してきている。”

オズデミールは、このイニシアチブについて語った：”バートウーラッハにおいてブレッツエルが、作られたという伝説が言われている。そのため、アナトーリアのシュバーベン人としての私は、このような提案に心打たれた。私はこの手続きを先取りしないが、しかし、連邦内での承認の成果ある採用後は公表可能である。ブリュッツエルの手作業を、無形文化遺産保持のためのユネスコ―合意の国際リストに提案する。なぜならば、オーストリア、フランスそしてスイスもまた、ブレッツエルの輪を伝統的に守っているからである。”

訳注：ブリュッツエルは、ドイツ発祥の菓子パンである。語源はラテン語の「腕ぐみ」したような、独特の形をしている。焼きあがった後に「粗塩」を振っておく。ビールとソーセージがよく合う。特にミュンヘンで開催される「オクトーバフェスト」（通称ビール祭）には欠かせない「おつまみ」である。

ドイツ発祥のブレッツエル

ブレッツエル販売パン店

ビールとソーセージが合う

q

子供にも作り方を伝える

オクトーバーフェストでの販売

オクトーバーフェスト用の

大型のブレッツエル

4 オズデミール大臣：ウクライナの林業分野の戦争被害の再興を支援
ーヨーロッパのウクライナ支援プロセスを開始ー （2022・8・30）

ウクライナにおいて繰り返されている戦争による森林ー林業被害を背景に、連邦食料・農業省オズデミール大臣は、ヨーロッパ支援プロセスを開始した。

44 の加盟国大臣が決定した、全ヨーロッパ林業大臣による「林業ヨーロッパ」の議長である、オズデミール大臣が、今週火曜日（8 月 30 日）に、いわゆるハイレベル―政策対話を実施した。

林業ヨーロッパのハイレベル対話

オズデミール大臣が強調した：ロシアの戦争行動が森林火災を掻き立て、そしてさらにまた森林において巨大な被害を引き起こしている。これは長期的に続く問題を生じている。このため、具体的な支援政策が必要になっている。

ウクライナは、ヨーロッパで 9 番目に大きな森林面積をもっている。

連邦大臣オズデミールはこれについて説明した：ロシアの国際法違反の侵略戦争は、破壊の傷跡を多く残している。ウクライナとヨーロッパの連帯は、無制限に有効である。私は、森林分野でもまた、ウクライナ支援を喜んでいる。

同時に我々は、気象環境そして生物多様性保護のために、重要な貢献をしている。このことは、ウクライナを越えて最終的に全て我々に役立つ。そのため、我々は現地の人々を支援する。木材は現地のそこで暖房に用いられ、そして重要な収入源となる。その他のヨーロッパ各国において、特に建築資材として用いられる。

オズデミールは、理想的なプラットホームである「林業ヨーロッパ」を、全ヨーロッパの支援プロセスとして協調して実施する。この支援プロセスの領域において、ウクライナの森林と林業インフラに対する、戦争による被害を調査すること。並びに必要な再興対策を把握することを計画している。これは「林業ヨーロッパ」への署名国の 2 国ー多数国間の協定プロジェクトを通じて、国際組織の支援を、戦争の間中、さらに戦争後にも実施する。

カルパチア山脈とウクライナの森

秋色に染まるウクライナの森

ウクライナの林業

森の中での戦闘は森をも破壊

森の中の遺体を回収する

チェルノブイリの原子力発電所近くの森林火災

５　アフリカ―ブタ熱の発生地域の封鎖期間の短縮を EU-委員会に要請

―貿易停止など養豚農場の苦境軽減を―　　（2022・8・24）

連邦食料・農農業省は、ブリュッセルにアフリカ豚熱（ASF）の制限期間の短縮を申請した。

オズデミール大臣：ニーダーザクセン州における ASF の発生状況を説明した。”ASF の発生状況は、養豚経営に生存に関わる大きな不安を与えている。

ASF が発生した養豚農場の封鎖

私の省は ASF の発生以来、EU 一委員会と密接にコンタクトをとり、ニーダーザクセン州政府農業省を支援している。動物感染症防止は国の問題である。

このため、我々は他の州においても、以前よりも支援している。連邦付属のフリードリッヒ　ローフラー研究所は、特に発生防止啓蒙と診断学に関して支援している。

我々は、先週封鎖期限の短縮について、EU ―委員会に対する非公式申請を行った。週末に私宛にニーダーザクセン州の同僚大臣が、今あらゆる必要な情報を、伝達してくれた。

その結果我々は今、ブリュッセルに有限の期限短縮を、申請することができた。この申請には、疫学的な状況並びに講じている防除対策に関する情報を示している。これはこれまでない説得力のある必要なデータを提示している。私は緊急に EU ―委員会に対してアピールしている。ここでは、早急に決定を得たい。それは発生した養豚経営が、より多くの豚と殺を余儀なくされているからである。そのため、我々は ASF ー制限地域からの豚と殺について尽力している。

我々はこの点について、カナダとの協議を行っている。輸出再開の方法について合意するために。ドイツの家畜飼育は、私にとって非常に気にかかっている。我々は自然な循環を必要とすることから、昨年多くの養豚経営が ASF の影響でもって、断念している。私は将来において、ドイツからの上質な豚肉を提供したい。私がより多くの家畜の福祉並びに気象ー環境保護のために、配慮することで、可能になる。それ故に、私の省は各州の養豚経営の広範な防除対策に対して報いたい。例えば、封鎖期限短縮を通じて。そのため、この対策の良い結果を願っている。我々は今、現実的なそして単純な問題解決を必要とする。

背　景：

AFS ー封鎖地域からの豚をと殺した場合、企業は輸出の可能性ための不利を懸念している。なぜならば、多くの第三国（その中にカナダも含む）が、ASF ー発生経営の全ての肉を受け入れてない。そのため、連邦食料・農業省はカナダとの協議を通じて、特にニーダーザクセン州におけると殺豚経営の緊張した状況を、責任感をもって示す。可能な限り持続的な不利益が生じないために。

ASF 鑑定を行う研究者

ASF の発生を示す標識

ASF を伝播する猪の駆除

6　EU 一委員会がニーダーザクセン州の ASF 一封鎖期間短縮要請を拒否

ー ASF 発生地域での封鎖期間短縮の申請を拒否ー　（2022・8・24））

EU 一委員会は、連邦食料・農業省とニーダーザクセン州の ASF 一封鎖期間短縮の共同申請を拒否した。３つの州（ブランデンブルグ州、バーデン―ヴュルテンベルグ州、ニーダーザクセン州）における ASF の発生が、ドイツにおける疫学的状況が、この間 に全体的に悪化していることを、ＥＵ－委員会が指摘している。

これの背景には、ドイツにおける離れた地域において、さらなる ASF 一伝染の高リスクが生じていると，懸念を表明した。感染症の防除は各州の管轄である。連邦食料・農業省は言葉と行動で支援している。そのため、連邦食料・農業省は、最終的にニーダーザクセン州における防護対策と努力を、封鎖ゾーンの期間短縮で報いるべきとブリュッセルに申請している。この間にニーダーザクセン州の ASF ―発生地域の健康な豚約１万頭が、と殺体重に達している。

連邦食料・農業省は、完全に疑念なく食べることができる食肉製品の「と殺」と、マーケッテイングを可能にするために、州当局と「と殺企業」とともに、解決策を探求している。このため、「と殺」企業は現在肉となる豚の受入れを拒否している。

２０２２・９・10　訳
青森中央学院大学
地域マネジメント研究所
中川 一徹